

中学生における生成AI利用の用途別類型化とその特性

○水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

小中学生が**安心、安全**に I C T を利活用する
G I G Aスクール構想の促進と課題の洗い出し

回数	1 回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
時期	2018年11月	2019年11月	2020年11月	2021年11月	2022年11月	2023年11月	2024年11月	2025年11月
回答数	500	1000	1100	500	600	600	1300	1200
方式	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置
対象	関東	全国	全国	関東	関東	関東	全国	全国

調査時期	2025.11
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	全国 小中学生の親と子
標本抽出方法	層化二段抽出 性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数	1,200組（小中学生とその親）

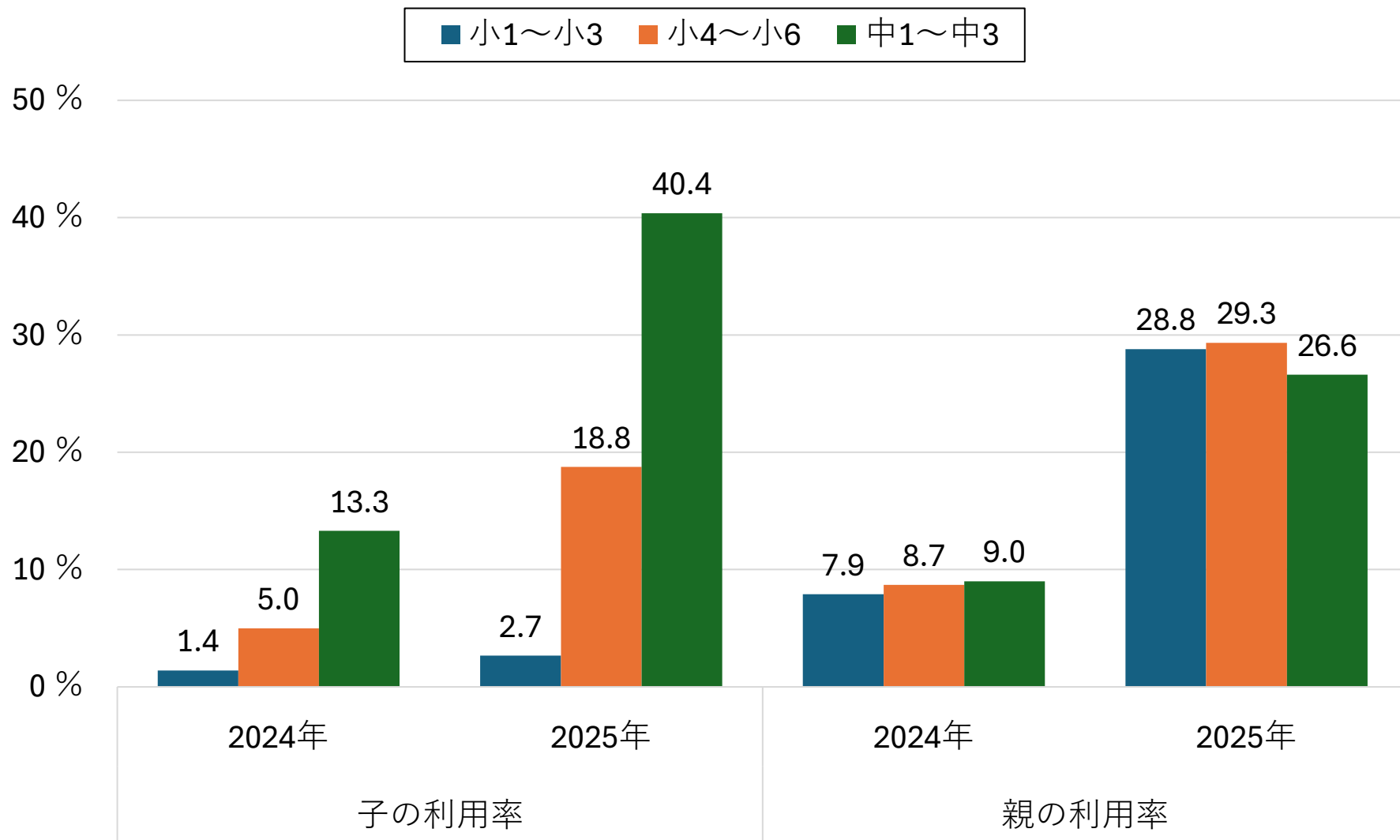
目的

中学生の生成AI利用用途に基づき類型化を行う。
また、類型化した後に特性の分析を実施する。

調査概要

調査時期	2025.11
調査方法	訪問留置法
調査対象	全国 小中学生
標本抽出方法	層化二段抽出法・性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数	1,200組（小中学生とその親） 分析対象：420組（中学生とその親）

中学生の利用率は前年と比べて27.1ポイント上昇した。
保護者の生成AI利用率を上回っており、また利用率の上昇幅も保護者より大きい



中学生と生成AIに関する国内の研究

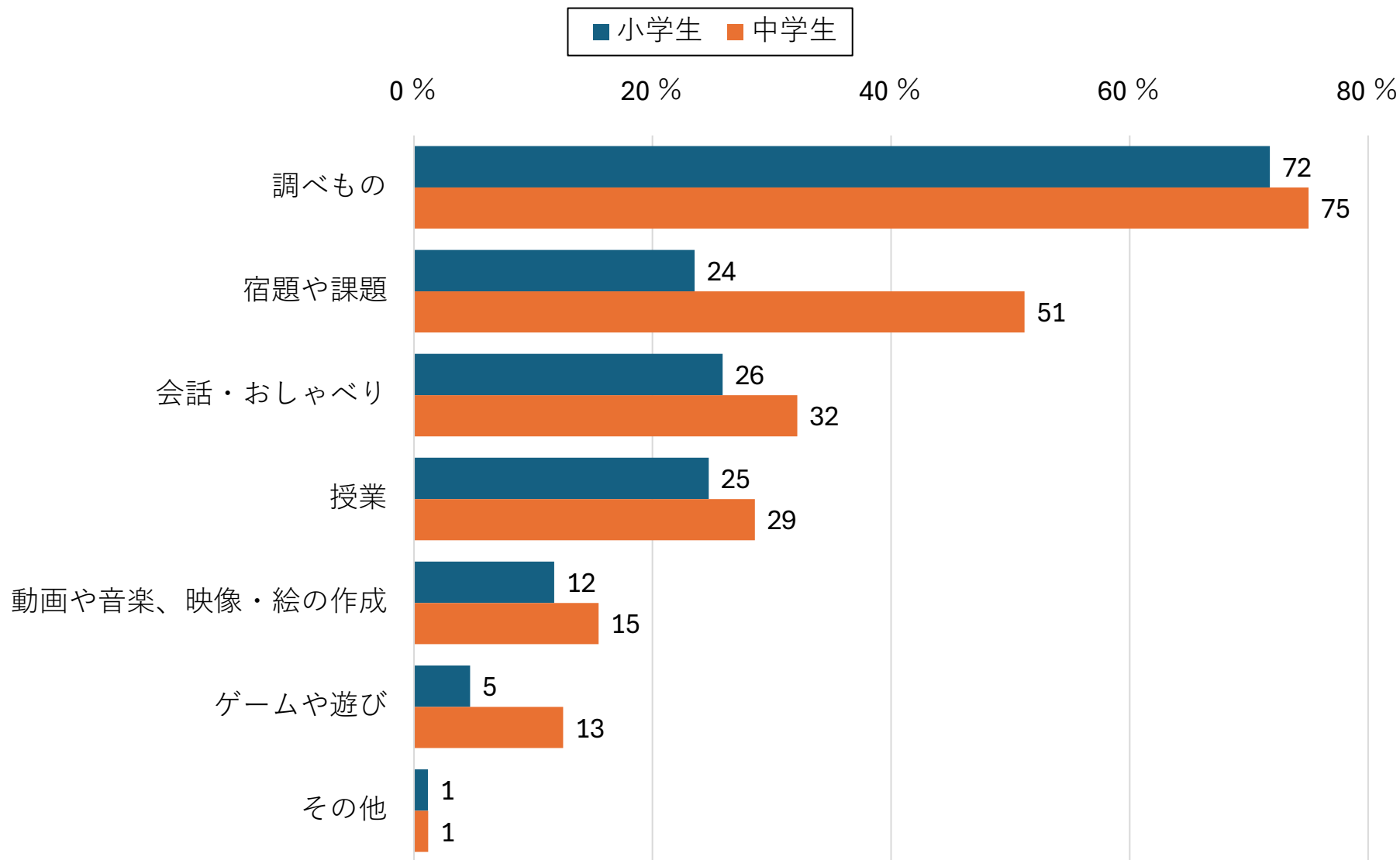
中学校の**授業実践**における生成AIの活用事例報告や、
教師の認識・支援の在り方に関する研究が蓄積されつつある。
また、生成AIの利用経験の有無とICTスキルや情報行動との関連を分析した量的
研究も見られる。

中学生を含む学級において、情報活用能力が高く、継続的に利用される場合、
生成AIが「検索ツール」から「学びのパートナー」へと変化する可能性を示した

安藤祐介, 佐藤和紀, 井手絢絵 (2025) 子どものプロンプトと教師アンケート
に基づく学校での生成 AI 利用の実態調査. 日本教育工学会研究報告集
JSET2025-3-B5, 104-111

中学生が**どのような用途で利用しているのかを軸に整理・類型化**し、その特徴を体系的に明らかにした研究は十分中学生と生成AIに関する国内の研究

中学生の利用率は前年と比べて27.1ポイント上昇した。
保護者の生成AI利用率を上回っており、また利用率の上昇幅も保護者より大きい



「娯楽」「探索」2 因子を抽出

	娯楽	探索
ゲームや遊びで使った	0.84	-0.06
動画や音楽、映像・絵を作るために使った	0.40	0.28
会話・おしゃべりをするために使った	0.37	-0.09
宿題や課題をする時に使った	-0.04	0.80
学校の授業の中で使った	0.09	0.38
調べものに使った	-0.15	0.31

因子抽出法: 最尤法

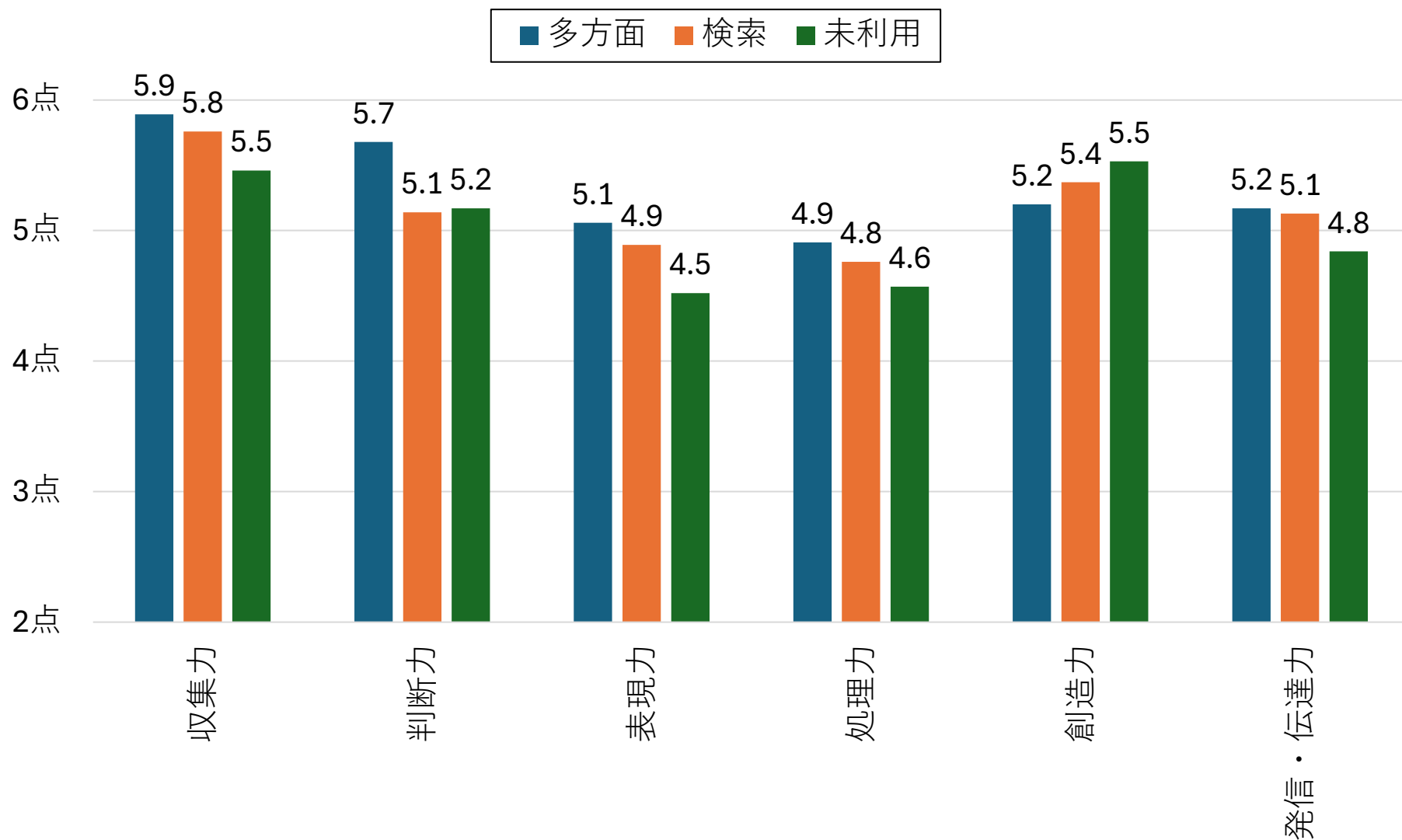
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

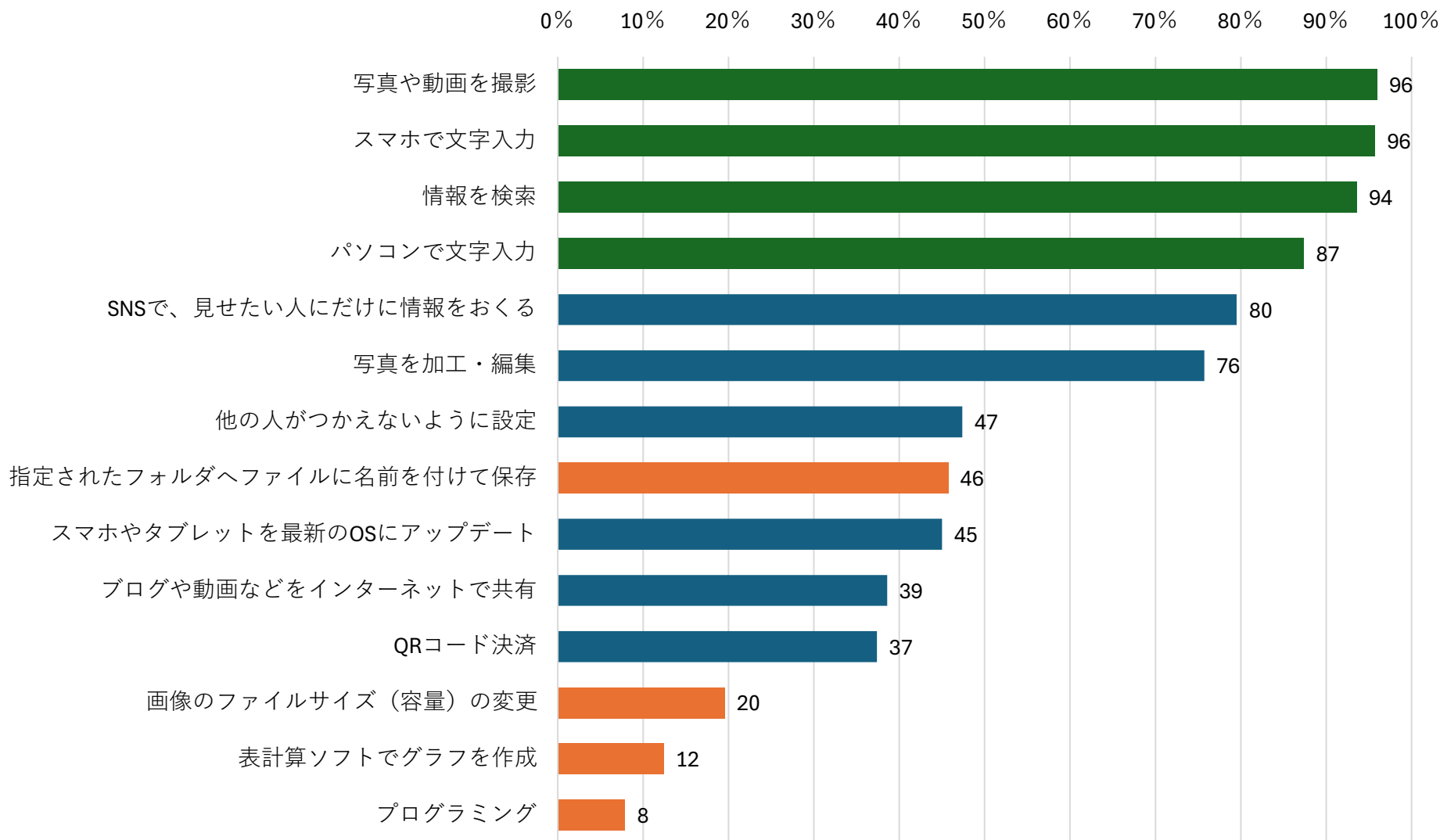
因子分析を参考に3つの群に分ける

		「ゲームや遊び」 「動画・音楽・映像の作 成」「会話」	「宿題や課題」 「学校の授業」 「調べもの」	構成比 回答数
1 群	多方面	○	△ (88.6%は実施)	8.4% 35人
2 群	検索	×	○	27.6% 115人
3 群	未利用	×	×	64.0% 267人

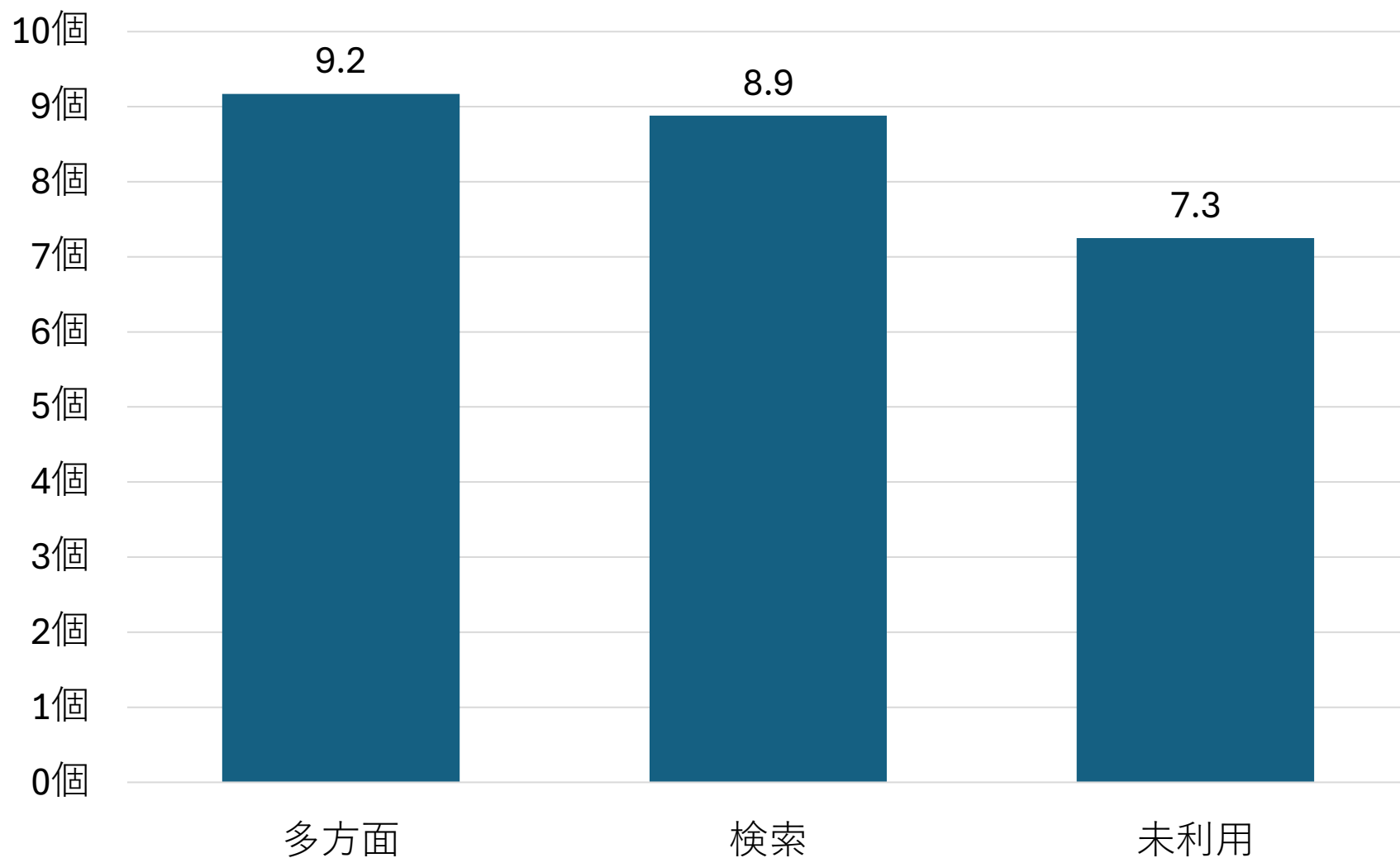
情報活用実践力	収集力	a. わからない事があれば、辞書・ネット等で調べる
		b. ニュースを、あまり見ないほうだ (※)
	判断力	c. 人の噂をすぐ信じるほうだ (※)
		d. 新聞やテレビ、ネットで言われること、書かれていることを、すぐ信じるほうである (※)
	表現力	e. 調べたことを整理するとき、文章だけでなく図や表も活用するよう心がけている
		f. 集めた資料を整理するのは苦手である (※)
	処理力	g. 意見がたくさんあっても、うまくまとめることができる
		h. 筆者が一番言いたいことを把握するのは苦手である (※)
	創造力	i. 人の意見に流されやすい方である (※)
		j. 自分なりの考えをもつようにしている
	発信・伝達力	k. わかりやすい文を書くのは苦手である (※)
		l. 人に伝える時、なるべく難しい言葉を使わないように気をつけている

「創造力」を除き、生成AI利用群が高く、特に「多方面」が高い傾向

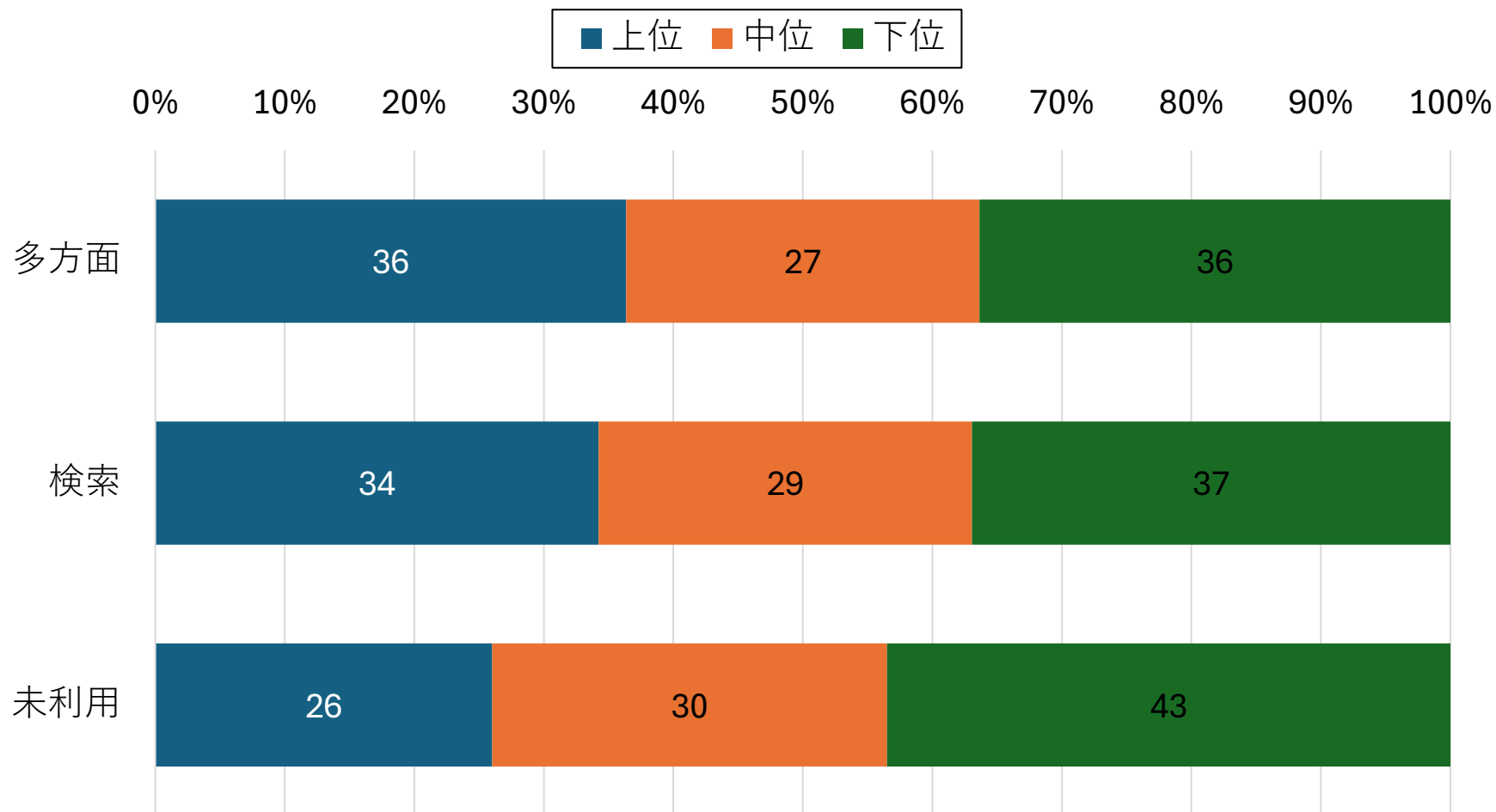




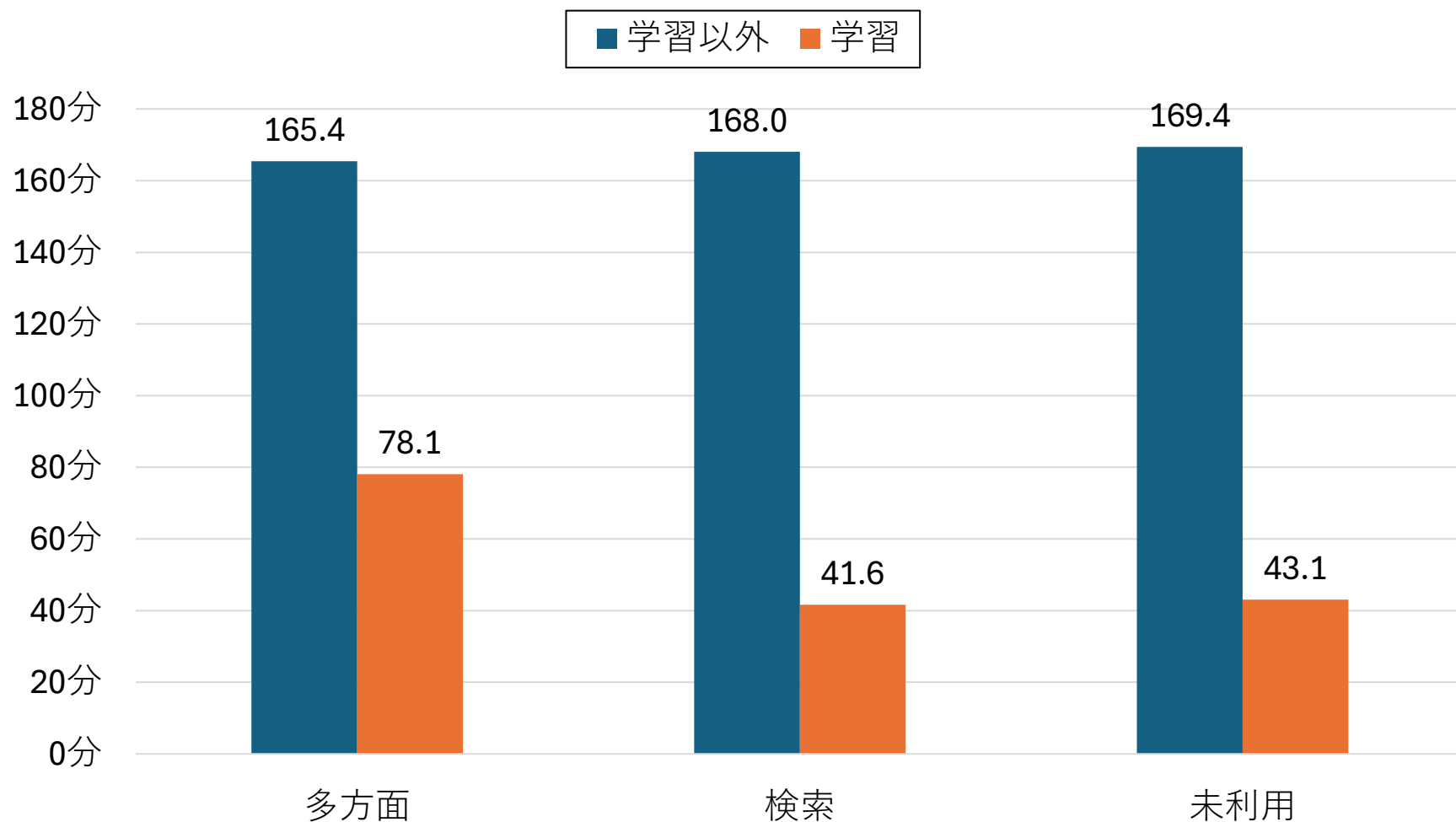
生成AI利用者はICTスキルが高い



生成AI利用者はやや学校での成績が上位



学習でのインターネット利用時間に差は見られないが、
学習でのインターネット利用時間は「多方面」が長い



- ・生成AIを多様な用途で活用している生徒ほど情報活用実践力やICTスキルが高い
- ・生成AIを利用している生徒が、必ずしもインターネットを過度に利用しているわけではなく、利用の「量」よりも「質」や「目的」による差

		情報活用実践力	ICTスキル	学校での成績	インターネット 利用時間
1 群	多方面	高い	高い	やや上位	学習での 利用時間が長い
2 群	検索	やや高い	高い	やや上位	学習での 利用時間短い
3 群	未利用	低い	高い	やや下位	学習での 利用時間短い

ご清聴いただき、ありがとうございました

- ◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
- ◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施

光の伸張

モバイル動向(基礎調査)

＜経年変化:2010年～＞

ニューノーマル

子どものICT

スマホ利用者意識調査

健康とICT

シニアのICT

防災・減災のICT

SNS

影の縮小

情報発信

【研究成果の発信】

＜モバイル社会白書2024＞

データで読み解くモバイル利用トレンド2024-2025

データで読み解く
モバイル利用トレンド
2024-2025

株式会社NTTコムモバイル社会研究所

(書籍・電子書籍)

＜モバイル社会研究所HP＞

<https://www.moba-ken.jp>



(レポート発表)

＜各種学会発表＞

メディア掲載・データ引用・意見交換会等